

平成 28 年（2016 年）の磐梯山の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
地 域 火 山 監 視 ・ 警 報 セ ン タ ー

火山性地震が一時的に多くなることがありましたが、地震活動は概ね低調で、噴気活動及び地殻変動にも特段の変化はみられませんでした。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2016 年の発表履歴

2016 年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）
-------------	-----------------------------

○ 2016 年の活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1～6、図 7-①）

剣ヶ峯に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁からの噴気の高さは 100m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。12 月 1 日に運用を開始した櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められませんでした。

8 月 19 日及び 25 日に実施した現地調査では、前回（2013 年 9 月 12～13 日）と比較して、沼ノ平及び山体北側火口壁噴気地帯の地熱域及び噴気に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 7-②～⑥、図 8）

6 月 10 日に、山頂付近を震源とする火山性地震が日回数 53 回と一時的に多い状態となりましたが、その他の期間、地震回数は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 9、図 11）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料は、気象庁のデータの他、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。



図 1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状態
(7月16日)

- ・ 剣ヶ峰（山頂の北約 7 km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは 100m です。

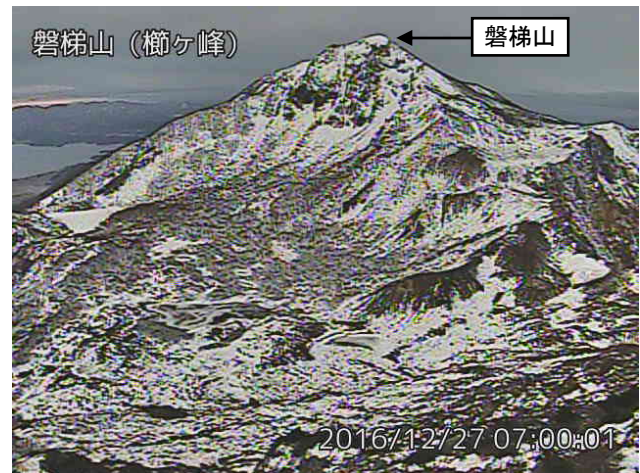


図 2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況 (12月27日)

- ・ 櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約 600m）に設置している監視カメラの映像です。

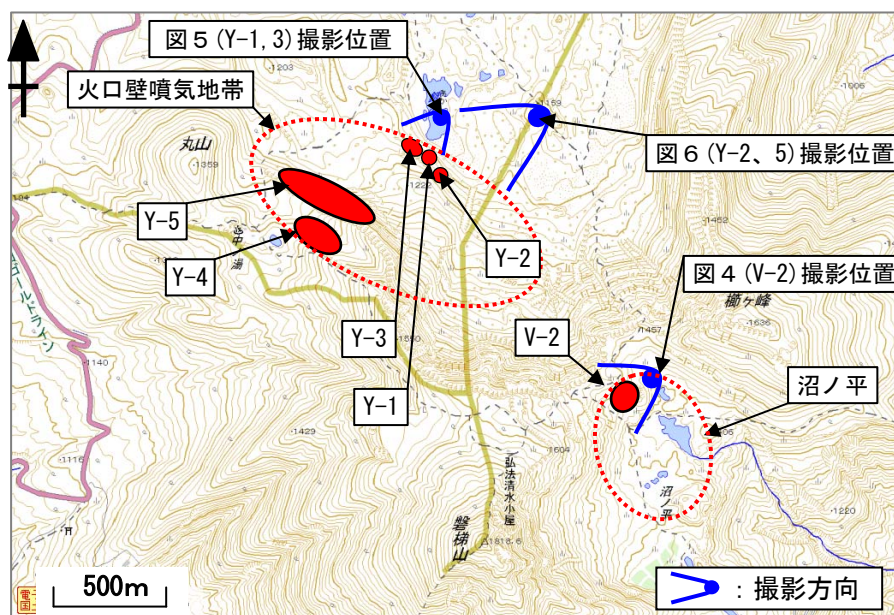


図 3 磐梯山 噴気地熱域の分布図及び可視画像と地表面温度分布¹⁾ 撮影位置

- 1) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
 - ・ 図中黒線領域は図 3 の範囲を示します。

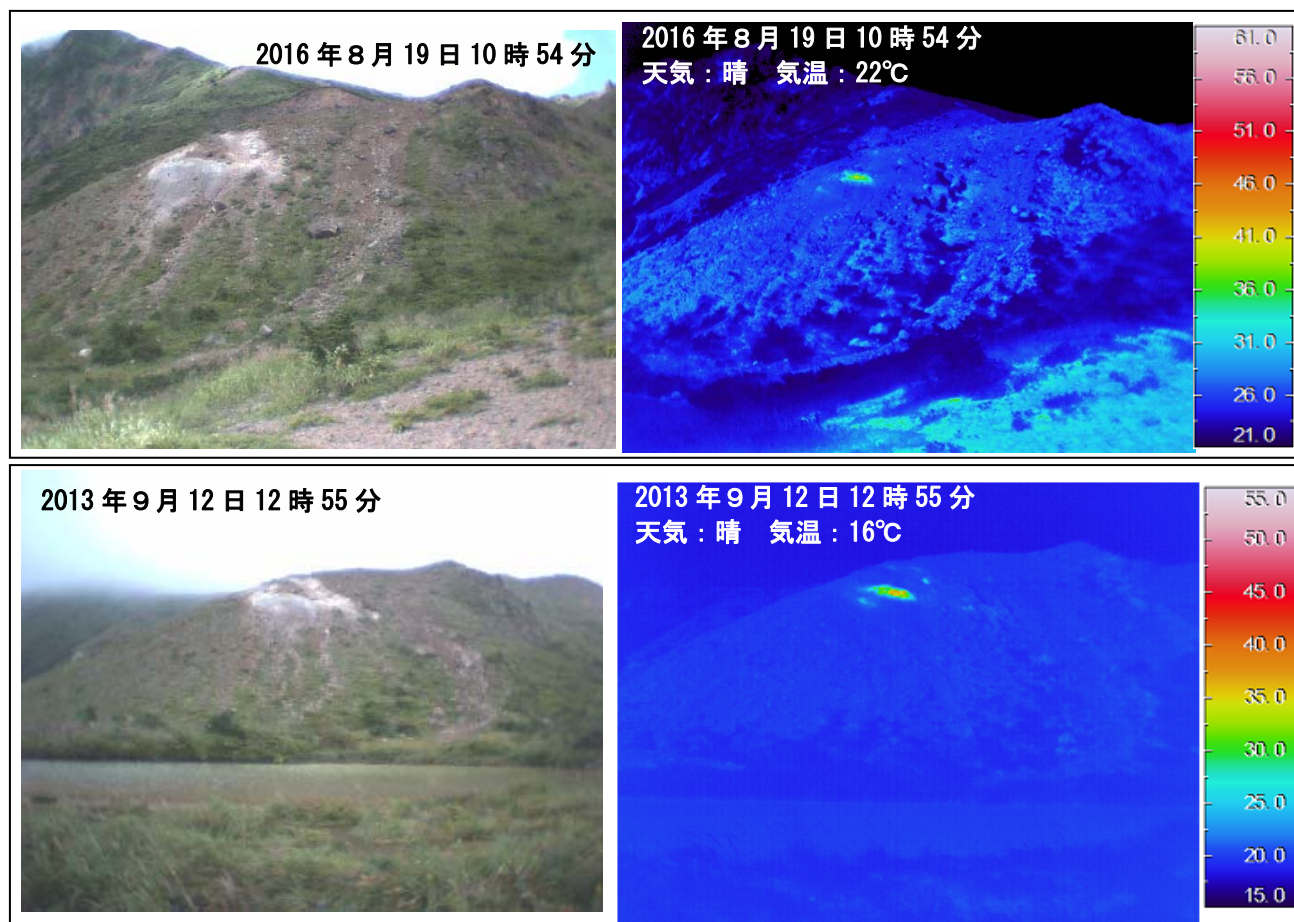


図 4 磐梯山 沼ノ平噴気地帯（V-2）の可視画像と地表面温度分布

- ・ 前回（2013 年 9 月 12 日）と比較して、地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

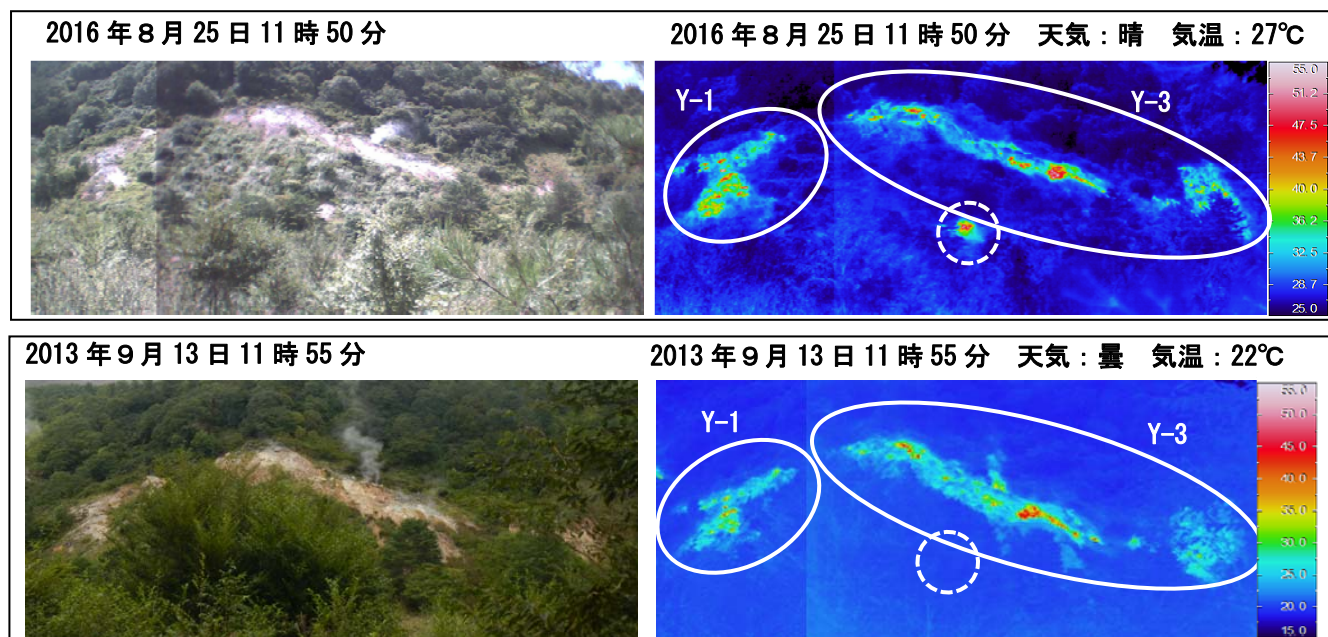


図 5 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-1、Y-3）の可視画像と地表面温度分布

- ・ 前回（2013 年 9 月 13 日）と比較して、地熱域（実線白丸内）や噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 白丸破線領域は以前から地熱域のある場所ですが、前回は植生により見えていません。

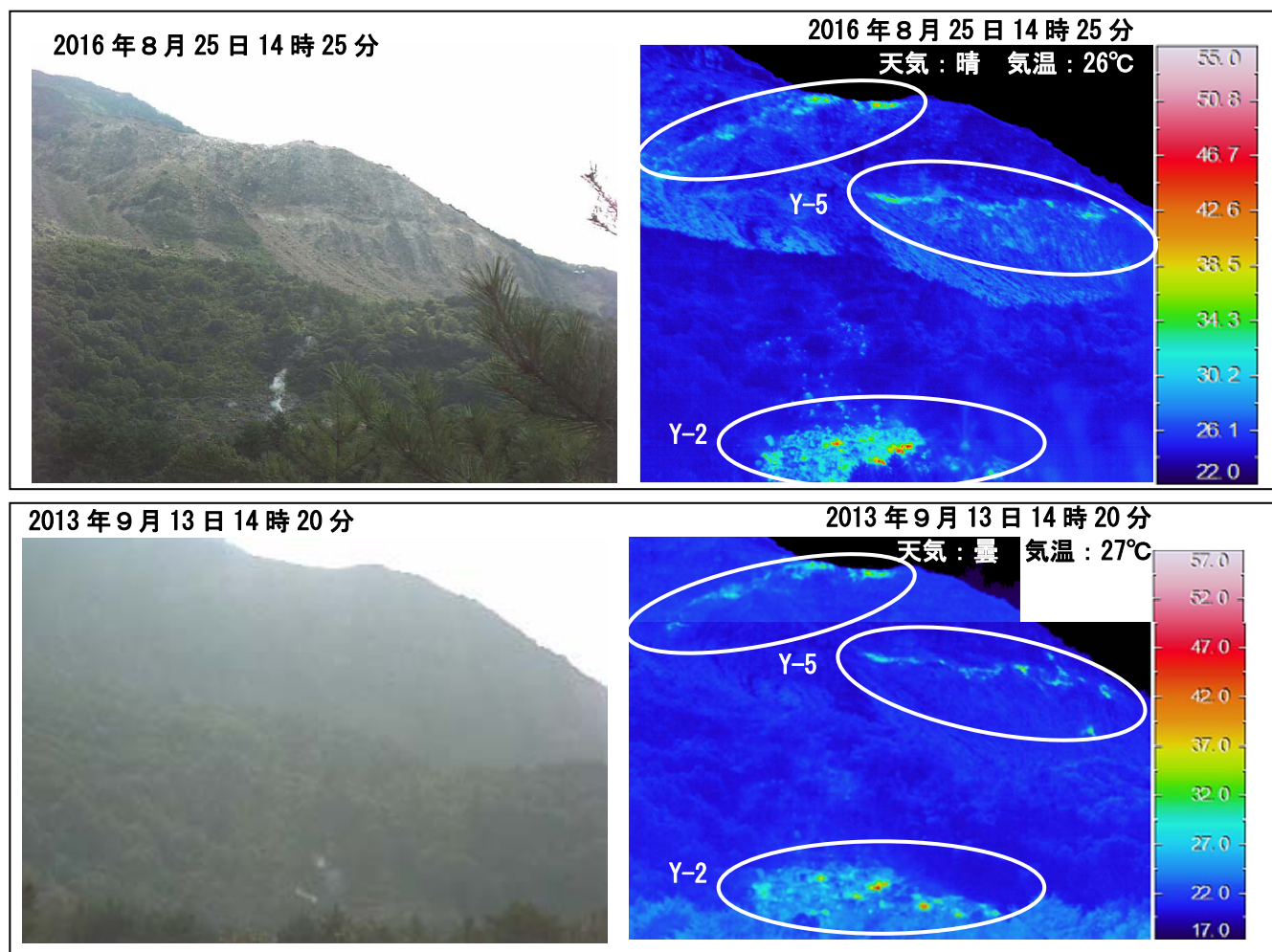


図 6 磐梯山 火口壁噴気地帯（Y-2、Y-5）の可視画像と地表面温度分布

- ・ 前回（2013 年 9 月 13 日）と比較して、地熱域（実線白丸内）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。

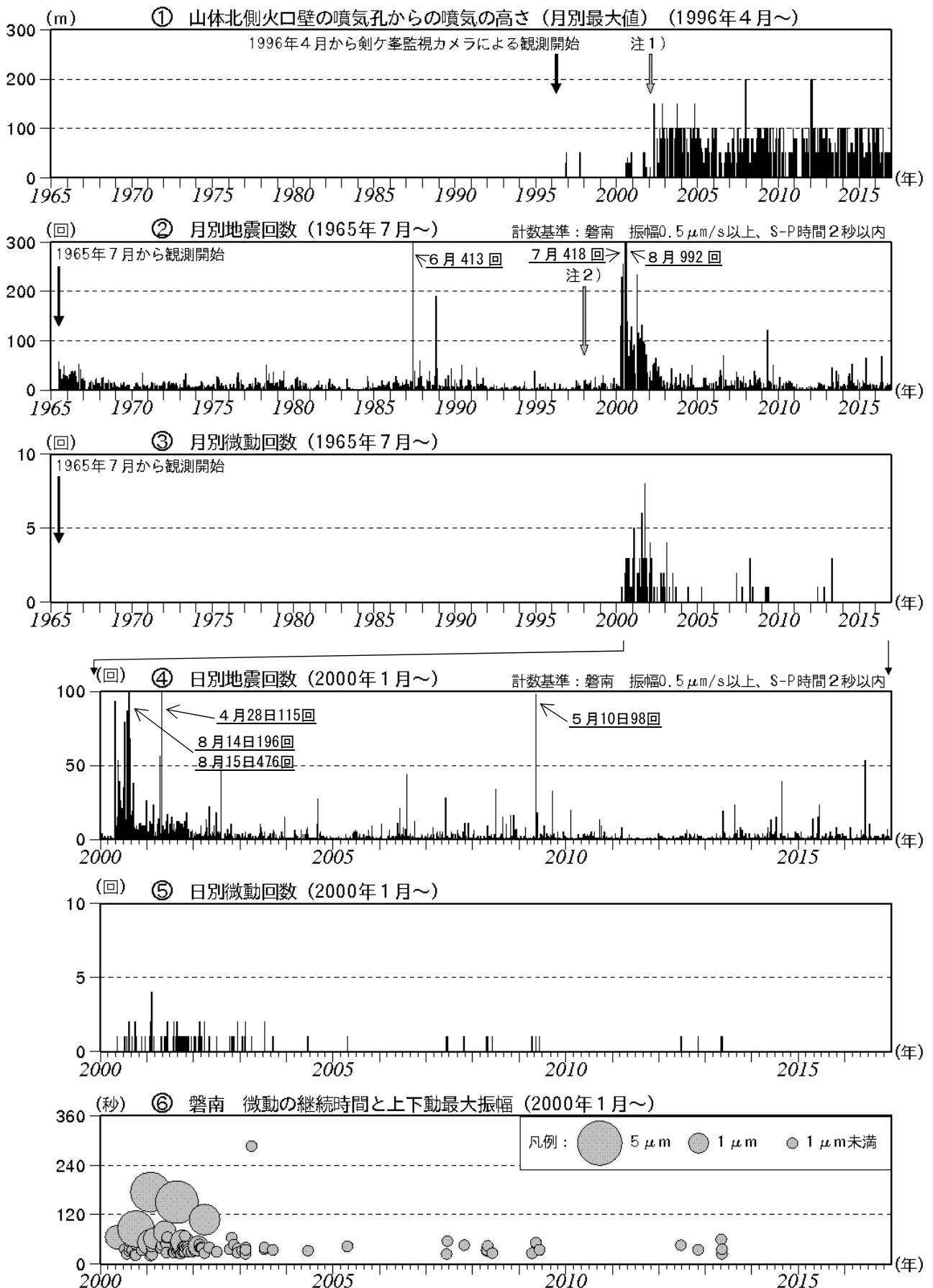


図7 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2016年12月）

- ・ 6月10日に、山頂付近を震源とする地震が日回数53回と一時的に増加しました。
- ・ ①注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・ ②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

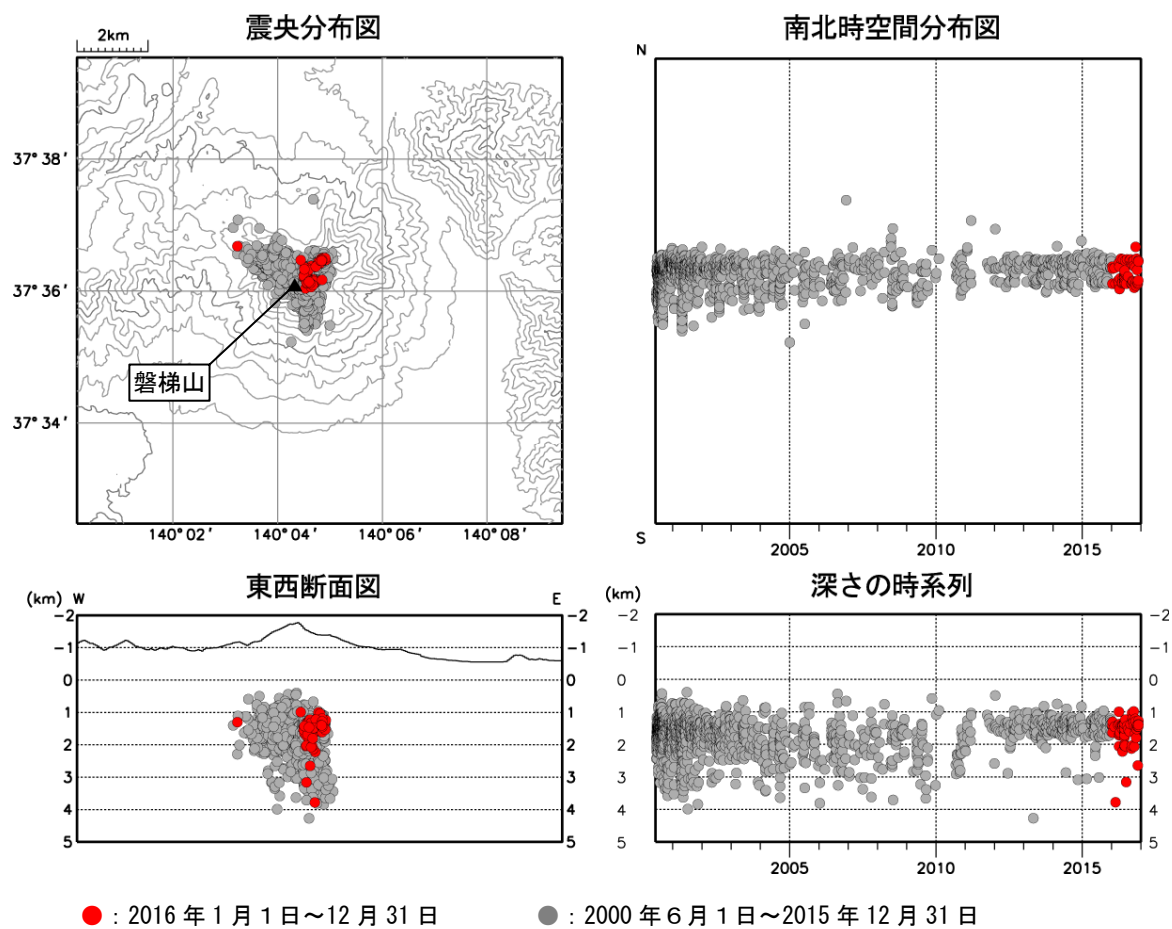


図 8 磐梯山 地震活動 (2000 年 6 月～2016 年 12 月)

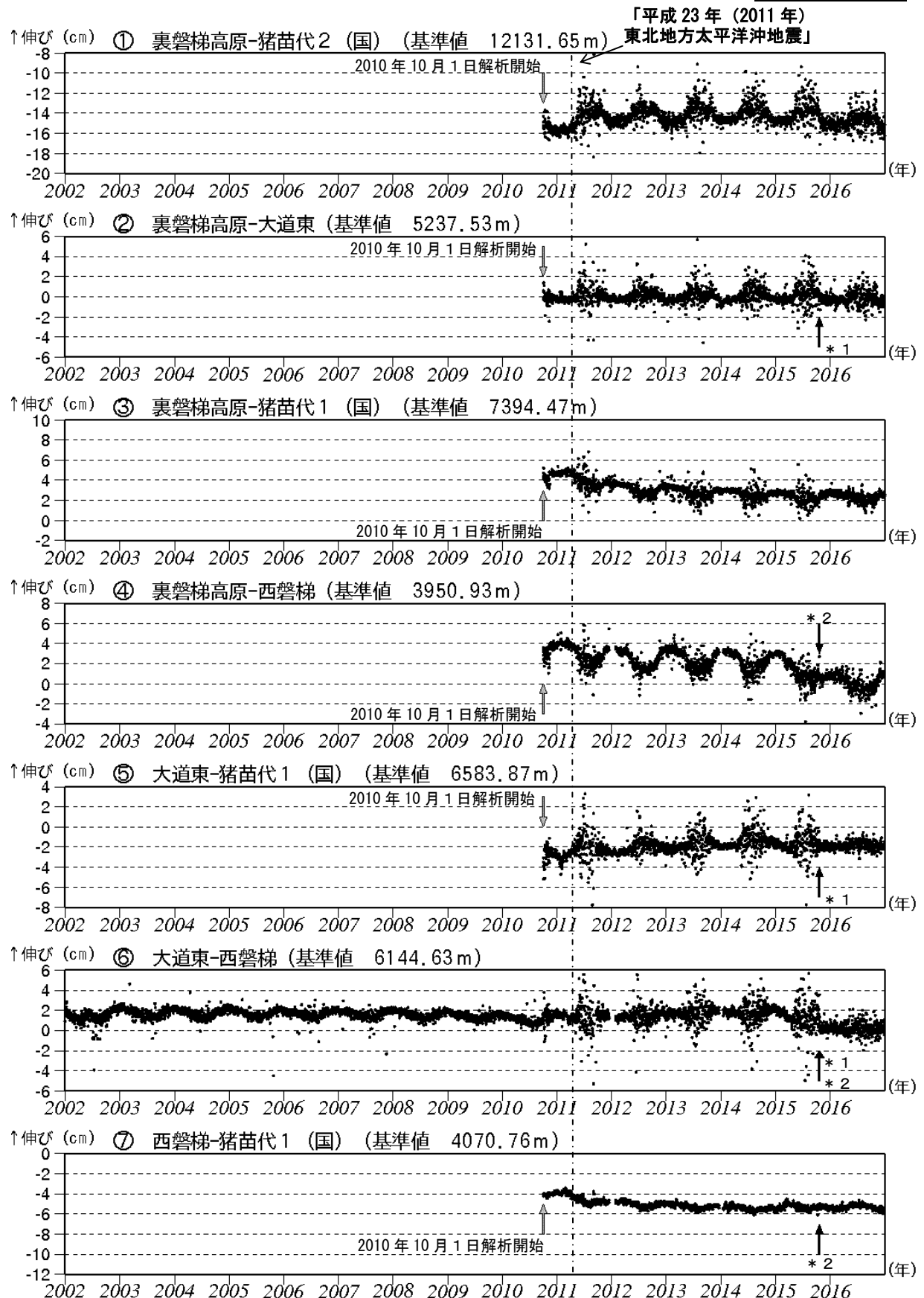


図9 磐梯山 GNSS²⁾ 基線長変化図 (2002年1月~2016年12月)

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

- ・今期間は火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。
- ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①~⑦は図11のGNSS基線①~⑦に対応しています。・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国) : 国土地理院

* 1 大道東観測点の機器を更新し、移設を行いました。 * 2 西磐梯観測点の機器を更新しました。

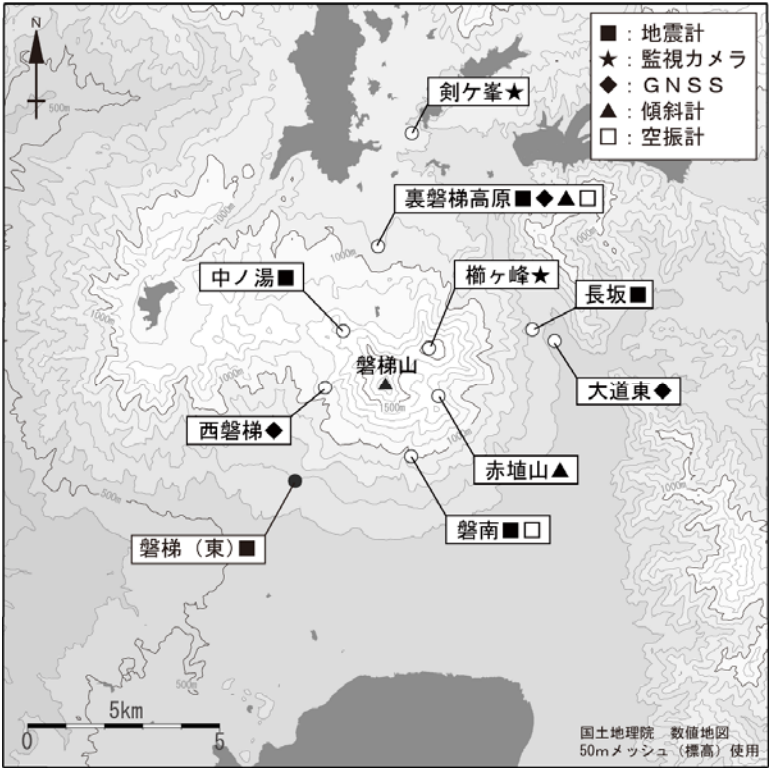


図 10 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学

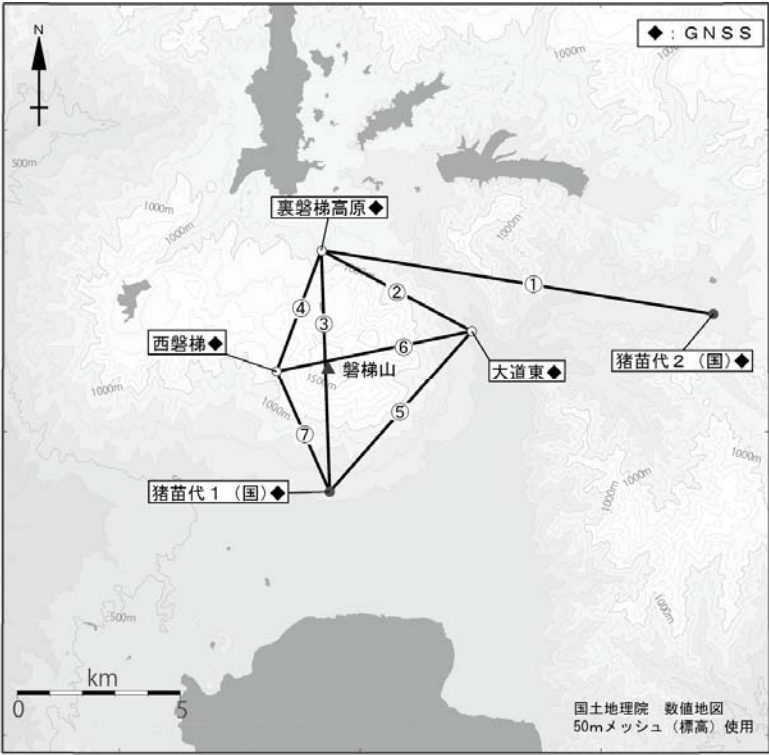


図 11 磐梯山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

表 1 磐梯山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高 (m)			
地震計	磐南	37° 35. 04′	140° 04. 79′	1000		1965. 7. 1	短周期 3 成分 2000年11月2日：現在の場所に移設
	長坂	37° 36. 84′	140° 06. 93′	650		2005. 12. 8	短周期 3 成分
	裏磐梯高原	37° 38. 01′	140° 04. 20′	902	-98	2010. 9. 1	短周期 3 成分 ポアホール型
	中ノ湯	37° 36. 83′	140° 03. 59′	1320	-2	2016. 12. 1	広帯域 3 成分
空振計	磐南	37° 35. 0′	140° 04. 8′	1000		2000. 11. 2	
	裏磐梯高原	37° 38. 0′	140° 04. 2′	902	3	2010. 9. 1	
傾斜計	裏磐梯高原	37° 38. 0′	140° 04. 2′	902	-98	2011. 4. 1	
	赤埴山	37° 35. 9′	140° 05. 3′	1297	-15	2016. 12. 1	
GNSS	大道東	37° 36. 7′	140° 07. 3′	582	3	2015. 10. 19	2 周波
	西磐梯	37° 36. 0′	140° 03. 3′	1189		2000. 9. 7	2015年10月21日：2 周波に更新
	裏磐梯高原	37° 38. 0′	140° 04. 2′	902	4	2010. 10. 1	2 周波
監視カメラ	剣ヶ峰	37° 39. 6′	140° 04. 8′	810		1996. 4. 1	可視カメラ
	櫛ヶ峰	37° 36. 6′	140° 05. 1′	1635	4	2016. 12. 1	可視、熱映像カメラ